

オーストラリア 日本向け生食用ブドウの輸出が増加

[FreshPlaza 2025年9月16日](#)

オーストラリア産生食用ブドウの昨シーズンの輸出量は14万トンを超え、輸出額は約6億豪ドルに達し、過去2番目の好成績となった。オーストラリア生食用ブドウ協会のジェフ・スコットCEOによると、シーズン全体としてはやや明暗が交錯した展開であった。(以下「」は同CEOの話)

「シーズン序盤は非常に順調であったが、その後の高温により一部の果実が柔らかくなった。そのため、生産者が急いで収穫を進め、市場には一度に大量のブドウが出回る結果となった。品質と味は大変良好であったが、果実がやや柔らかかった。収益は全般的に昨年並みかそれ以下であり、投入コストが常に上昇している中、一部の生産者にとっては厳しい状況となっている。」

現在の中国経済の減速も収益に影響を与えているが、スコット氏は市場が近く回復すると見ている(中国はオーストラリア産ブドウの最大の輸出先)。「オーストラリアは今シーズン、日本市場への輸出許可品種が追加された。日本向け輸出量は3,500トンから1万トンへと拡大し、大きな成功例となった。現在もオーストラリア産のブドウへの強い需要が続いており、今後も成長が期待されている。昨シーズンは全ての輸出先で輸出量が増加した。オーストラリアにとって第2の市場であるインドネシアは3万トンで、もう一つの良い市場となっている。」

生産者の収益が伸び悩み、業界への投資にも影響が出ている。特に知的財産権のある新品種の導入には費用がかかるため、生産者は慎重な判断を迫られている。

「栽培面積の拡大はやや鈍化しているが、生産者は既存園地での改植と新品種への投資を進めている。これらの品種は、より大粒で外観が良く、甘味が強く、輸送性に優れ、収量も高いのが特徴である。」

現在は冬季であり、ブドウの樹は休眠期に入っている。来シーズンの見通しが明らかになるまでには数カ月を要するが、冬の間には十分な低温と適度な降雨があった。

執筆者: ニコラ・マクレガー

シンガポール 南アフリカ産ソフト柑橘類の需要が増加傾向

[FreshPlaza 2025年9月16日](#)

南アフリカ産柑橘類のシンガポールへの輸入は3月に始まった。クエックグローバル社のホン・チュー・クエック社長は、「3月にレモンで始まり、4月にはスतालビー品種のグレープフルーツを輸入した。6月にはヌールを含むクレメンタインやノヴァなどのソフト柑橘類に移行し、7月にはネーブルオレンジとバレンシアオレンジを取り扱った」と説明する。(以下「」は同氏の話)

「今シーズンの南アフリカ産柑橘類は、ヌール/クレメンタインとノヴァを除き、品質が良好である。南アフリカ産レモンの需要が非常に高く、卸売と小売の両段階で価格が高止まりしている。ネーブルとバレンシアの需要は平均的で、安定的に流通している。これは、7月に欧州と中東で需要が強く、輸入コストが高騰したことが一因と見られる。ただし、中東での供給過多による価格圧力のためオレンジの価格は緩む傾向にある。」

「弊社ではオーストラリアからもネーブルオレンジとソフト柑橘類の供給を受けているが、オーストラリア産柑橘類の需要は南アフリカ産には及ばない。また、タンゴ、ナドルコットなどのソフト柑橘類の需要が上昇傾向にある。これは、ソフト柑橘類の品種が甘く、果汁が豊富で、種無しであることが要因と考えられる。南アフリカ産のタンゴとナドルコットは、十分な量が9月にシンガポールに到着する予定である。」

一般的に、シンガポール市場では甘く、果汁が豊富で、種無しの柑橘類が好まれる。このため、タンゴ、ナドルコット、レートレーンネーブルオレンジ等の品種が市場で高い需要を獲得している。

執筆者: ニコラ・マクレガー

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)